

令和7年度 第1回
多治見市スポーツ推進審議会 会議録

日 時	令和8年1月26日(月) 15時30分～16時30分
会 場	子ども情報センター2階 研修室
出席委員 (敬称略)	小栗 和雄(会長)、 田辺 敦啓、中嶋 茂、青山 雄一、小野 秀也、安藤 秀章
欠席委員	鈴木 恵美子、堀田 淳子、中島 貴子
事務局	環境文化部 : 水野部長 文化スポーツ課: 水野課長、伊藤総括主査、加藤総括主査、加藤主事
傍聴人	—
会議録要旨	
1	開会
2	挨拶(環境文化部長、文化スポーツ課長)
3	委員の交代について 事務局 (加藤委員に代わり鈴木委員(本日欠席)が就任したことを報告。)
4	事務局紹介
5	資料の確認、委員会の流れの説明
6	会議の成立 事務局 委員総数9名のところ過半数の6名が出席のため、多治見市スポーツ推進審議会条例(水野)第7号第2条の規定により、成立することを報告。
7	会長挨拶 会長 10万人規模の市でここまでアーバンスポーツに力を入れているのは、行政の柔軟性・対応力があるとうかがえる。審議会では、客観的な意見、またはそれぞれの立場からの主観的な、忌憚のない意見を頂戴したい。
8	議題(1)「第2期多治見市生涯スポーツ推進プラン振り返り」 会長 事務局に説明を求める。 事務局 議題(1)について説明(資料1、資料2)。 (伊藤) ・第2期プランの総括として後期5年間の振り返りを実施した。 ・進行管理表の評価の仕方、点数の付け方、昨年度までと異なる点について補足。 ・基本方針1:全体では高い水準である一方で、施策(4)スポーツを支える人材の育成では課題も見える。 ・基本方針2:こちらも全体としては高い水準。施策(2)学校と連携した運動機会の充実は他と比べて低い水準である。具体的には、小中学校の外部指導者の活用については、コロナ禍で事業の実施ができなかったことやクラブと外部指導者のマッチングの難しさが理由としてある。第3期では取組内容の見直しも含めて重点的に取り組んでいく。 ・基本方針3:TYKスポーツパークの大規模改修、TYK競技場の第2種公認継続などハード事業と、トップアスリート事業によるプロスポーツの試合誘致、プロ選手の

	教室開催などソフト事業がそれぞれ高い水準で取り組めた。
	〈質疑応答〉
会長	評価が低かった項目は人が集まらなかったということに集約されるのか。外部指導者、ボランティアしかり。そのような観点ではどうか。
事務局 (加藤義)	各種目に指導者を派遣できるスポーツリーダーバンクの仕組みは、たくさんの人数が登録することに重点を置いて進めてきた。この仕組みでは、指導者を欲しがっているクラブの指定する曜日が、指導者の都合と合わないなど、100名を超える登録された指導者がいてもマッチングまでたどり着かないことが生じている。
会長	外部指導者について、地域総合クラブ側としてはどんな感触か。
委員 (中嶋)	保護者としては月～金の放課後5時から指導者に見てもらいたいが、一般的には仕事の都合もあり難しい。また、先生方の転勤で指導者の数がさらに限られたり、土日しかこられない人も多かったり、安定した指導者の確保が難しい。スポーツ教室のようにスポット的な開催へは指導者の派遣が可能でも、1年単位で継続的な指導をすることは、指導者側にとって負担が大きく、参加のハードルが高いという現状がある。
会長	部活動の地域展開については、多治見市はクラブ活動が進んでいる行政だと思うので、クラブという受け皿がある分うまくいきやすいのではないかと。
委員 (小野)	うまくいっていないのではないかと考える。
会長	どんなところがうまくいっていないのか。
委員 (小野)	(来年度から登録の仕方が変わる。①部活動のみ②部活動とジュニアクラブ③部活動と地域クラブ④クラブだけの4パターンから選択をしてもらう。)学校自体が部活の時間が取れていないことや、競技によって出場可否の規定が大きく違うことなどがうまくいっていない理由としてあるのではないかと考えている。
委員 (中嶋)	ジュニアクラブと地域クラブの線引きが種目協会によって違う。認識が違うからある種目では地域クラブで中体連に出られるが、他の種目では出られないなどがあり、昨年も中体連の登録でもめたことがあった。保護者が中心に運営されているなら地域クラブなのか。小泉だと小泉総合クラブが1つの組織として取りまとめているから地域クラブといえるが、他の中学校のように単体で運営していたらジュニアクラブなのか。ジュニアクラブと地域クラブが多治見市だと一緒に思えるので、区別がもう少しはっきりしないと、中体連の登録もはっきりしないし、各種目協会にしても説明ができないのではないかと考える。
会長	議論されているのは、まさに基本方針1-(4)や基本方針2-(2)に関わる大事なところである。この件でイニシアチブをとっているのはどこか。
事務局 (水野康)	教育委員会が主となり、文化スポーツ課はそこに参加し協議をしている。部活動の延長がジュニアクラブという定義でやっているが、中体連の今の流れは、メンバーが集まる競技や個人競技はジュニアクラブ、集まれなかったら地域クラブも認めざるを得ないと複雑になっているのが現状。教育の現場も何とかしたいという思いはベースにあって、今後はジュニアクラブでも地域クラブでも構わない、中体連の仕組みも学校対抗ではなくクラブ対抗になっていくと考える。部活動の延長といったニュアンスが薄れ、地域クラブという包含の仕方が広がって

	いくと思う。だれが認定するのか、どこから費用を捻出するのか、学校サイドの部活動の位置づけをどうするのが重要になってくる。
会長	取りまとめをする協議会はあるのか。
事務局 (水野康)	教育委員会と文化スポーツ課で協議を進めている。
会長	現在の多治見式と呼ばれる地域クラブはどういうものか。
委員 (青山)	<p>多治見式というのは、いわゆるジュニアクラブという名の保護者による部活の運営ということだと思う。10年前にジュニアクラブに携わっていたが、当時はジュニアクラブと言いながら教員が入っていたからうまく回っていた。全国的なクラブ化や教員の働き方改革で今は教員が入らなくなり、急に機能しなくなった。ジュニアクラブは保護者が指導者の確保、練習場所の用意、試合の設定、練習の当番、謝礼の支払など全部をやらなくてはならないので、負担がすごく多い。小学校6年生の保護者もそれを知っているためクラブに入らない人も多い。地域クラブは指導者が主となって運営し、月謝を払うだけなので保護者の負担は少なくありがたい。ジュニアクラブにおいて、指導者と合わないとなっても指導者を失うわけにはいかないため保護者は何も言えず、指導者が好き勝手するということもあるという。多治見市はジュニアクラブでやってきたので大事にしたいという思いはあるが、保護者は苦しい思いをしている。</p> <p>中体連においても他市町村は部活と地域クラブしかないが、多治見市ではジュニアクラブは実は部活なんですという申請が要る点などもうまくいっていないところだと思う。</p> <p>もう一点、小中学校の体育での外部指導者の利用について、自分が専門とする種目以外は外部の指導者にお願いしたい思いはあるが、事前の申請書類や事後のフィードバックなど煩雑な処理が多く活用が進んでいないのが現状。ハードルを下げただけだとよい。</p>
会長	ジュニアクラブの現状をどう認識しているのか。
事務局 (加藤義)	すみ分けを簡単に説明すると、部活から派生したものがジュニアクラブ、それ以外の集まりを地域クラブとしており、どちらも保護者が組織を見ていくこととなっており、滑り出しはよかったが、規約として、指導者の他に当番の保護者が要ること、送り迎えをすることなどがあるが、当番ができない、送っていけないなどの問題が発生している。ジュニアクラブは部活動派生のため、学校に用具が置いておけてすぐ活動ができる、学校対抗の試合に出られる、などの優遇がある。なぜ同じ校区の子どもなのに扱いに差があるのかとの意見もあり、課題を抱えている。
委員 (安藤)	軟式野球をやっている子が少ないと聞くと、リトルチームなどに行ってしまうこともある。そんな中において、合同チームで出場するのも一つの手なのか。
委員 (青山)	そもそも生徒数が減っている。陶都クラブでは小泉中学校、南姫中学校、南ヶ丘中学校といろいろな中学校から集まっており、地域クラブみたいではあるが、これが陶都ジュニアクラブとなっている。逆に陶都中からも雰囲気合わないからと小泉ジュニアクラブに行く子もいる。本当にジュニアクラブなのと思わないこともない。
会長	今検討している段階だとは思いますが、中学生の1年はあつという間のため、早く整理できるとよい。

委員 (田辺)	教育委員会、多治見市、スポーツ協会、各種目のクラブの方など関係者を集めて苦労や方向性などを取りまとめる必要があるのではないか。
委員 (青山)	若尾先生(教育委員会)が各クラブに案内を出して集約をする会を年に数回開催しているが、それぞれ思いが違ってまとっていないのが問題。
事務局 (加藤義)	スポーツ協会からは事務局長が出席している。
会長	全員の意見を集約して合意は難しいので腹をくくって進める必要があるが、問題はそれをいつだれがやるのかということだと考える。
委員 (田辺)	基本方針1-(4)、基本方針3-(3)はなぜ右上がりか。
事務局 (伊藤)	評価の指標を変更したため。1かゼロではなく、中間の0.5を設けて取り組みを評価できるようにした。
9 議題(2)「令和7年度スポーツ事業 進捗報告」	
会長	事務局に説明を求める。
事務局 (伊藤)	議題(2)について説明(資料3、資料4)。 ・事業番号6、13ポッチャ交流会はR6年度から始まりR7年度は2回目の開催だったが、今回は障害者の方だけでなく小中学生も一緒になっての開催が実現した。参加者18名のうち9名が小中学生で、障害者の方と一緒に盛上がり有意義なものとなった。 ・事業番号7TYKスポーツパークのオープニングイベントでは、プロによるスポーツ教室が大変盛況だった。
〈質疑応答〉	
委員 (安藤)	ポッチャはだれでも簡単にできるスポーツなので、今年は笠原小中の子と一緒にやったがもっと輪を広げていきたい。東京パラリンピック以降、障害者スポーツの理解が進み、隠れてやられていた方が表に出てくるようになった。子どものうちからスポーツを共存してやるのができたら、大人になったときもっと理解が進むのではないか。
会長	インクルーシブ教育のなかで羽島市では体育でポッチャをやる。だれでも簡単にできるのがとてもいい。
委員 (青山)	陶都中学校では知的の特別支援学級でポッチャを購入しおこなっている。交流ができればよい。
10 議題(3)「その他(情報提供)」	
会長	事務局に説明を求める。
事務局 (伊藤)	議題(3)について説明(資料5、資料6、資料7)。 ・資料5は次年度のスポーツイベントの開催予定をまとめたもの。 ・資料6は学校開放施設の利用率のデータであり、体育館の利用率がとても高いことが見て取れる。ジュニアクラブや地域クラブの利用もあり中学校では70%を超えている。 ・資料7は社会体育施設の利用率のデータであり、総合体育館では、第1,2体育館は土日の利用が95%越えという非常に高い利用率であった。

	・コロナ禍から利用率は大きく伸びはないが、利用人数は大きく増加し、回復の状況にある。
委員 (安藤)	視覚障害の方で、プールで泳ぎたいという方がいるが、学校のプールの開放はしていないのか。
事務局 (水野康)	現在は COPIN de プールに集約している。
事務局 (加藤義)	同伴者と一緒に行っていて利用していただけたらと思う。
会長	小中学校の水泳も委託しているのか。
委員 (小野)	していない。
会長	全国でもプールの維持が難しく、新たに作るのは現実的でない。コパンにバスで行って体育をする学校も増えてきている。民間との連携でそういった選択肢を選べるようにするのがよい。
事務局 (水野康)	今回の審議においては、長期的な課題もあり、近々の課題もいただいた。より良いスポーツの推進につなげられるよう取組を進めていく。
11 今後のスケジュールについて	
事務局 (伊藤)	令和8年度の第1回の開催は6月頃を予定している。 全ての次第が終了したため、これをもって委員会を閉会する。
<会議終了>	